

新規小麦栽培経営体における小麦栽培の定着推進

1 対象

新規小麦栽培経営体 4 法人（稲沢市、犬山市）

2 背景

J A 愛知西及び愛知北管内では令和 4 年産において、12 経営体によって小麦 96ha が作付けられた。

うち 4 経営体が令和 4 年産から新規に小麦栽培に取り組み始めているが、栽培技術が未熟であるため、小麦栽培の定着に向け、栽培技術の指導が必要であった。



小麦ほ場

3 活動の内容

(1) 栽培技術指導及び生育調査

排水対策、追肥の施用量や病害防除の時期、収穫時期等を指導した。また、対象経営体ごとに調査ほを設置し、生育調査を行った。

(2) 調査結果の取りまとめ及び栽培指針の見直し

生育調査及び経営体からの聞き取りの結果、対象経営体の収量、品質ともに良好であった。

(3) 調査結果の報告及び令和 5 年産改善策の検討支援

小麦栽培研究会において、対象農家に調査結果を報告した。なお、R 法人及び T 氏は、全体的には湿害が目立ったことから、令和 5 年産での改善策について支援した。

(4) 小麦生産者全体に向けての対応

令和 5 年産栽培指針において、近年発生が目立つ黄斑病対策について見直しを行った

令和 4 年産小麦の収量・品質調査結果

生産者	成熟期調査			収量調査			等級	ランク
	稈長	穂長	穂数	精麦重	千粒重	タンパク質含量		
	cm	cm	本/m ²	kg/10a	g	%		
H法人	81	10.4	611	879	40.3	11.4	1等	A
Y法人	82	9.9	606	842	41.7	8.4	1等	A
R法人	83	9.9	638	894	41.7	9.4	1等	A
T氏	71	9.3	535	701	41.7	8.2	2等	A

4 活動の成果

新規の 4 経営体について、令和 4 年産の小麦の収量・品質が良好であったこと、水稻と比べて所得率が高く（小麦の所得率は約 40%、水稻の所得率は約 12%）、労働時間（小麦は約 6 時間/10a、水稻は約 10 時間/10a）が短いことや令和 5 年産での改善方向が定まったことから、対象経営体は小麦栽培に対する意欲が高まっており、令和 5 年産の栽培面積は拡大され、前年産の 16ha から 21.7ha となった。

その結果、令和 5 年産では管内の小麦栽培経営体は 12 経営体、栽培面積 129ha となる。引き続き、小麦栽培の定着に向けて、小麦の播種作業、施肥、病害防除、収穫適期について指導を行っていく。